

特定非営利活動法人 (NPO 法人) 豊島サッカークラブ 「紹介」

● 「体育とスポーツの違い」

日本においてスポーツは学級教育の「体育」として展開されてきました。

学習指導要項では体育の目標を次のように掲げています。

- ・「適切な運動の経験と身近な生活における健康・安全についての理解を通して、運動に親しませるとともに、健康の増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる」
- ・「心と体を一体として捉え、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる」

このように、日本においては「体育」とは、健康の増進や体力作り、明るい生活を営む態度を育てる、といった健康的・教育的な要素が非常に強いものであると考えられてきました。

当クラブの前身「豊島少年サッカークラブ」は、会員父母のボランティアによって運営することを条件に、昭和58年（1983年）にスタートした地域のプライベートクラブですが、当時のチームスローガンでも下記のように考えていました。

- ・父母の相互理解のもと、子供たちの身体と心を育てるために最もスポーツをしなければならない時期に、より良い環境を作り、優れた指導者、およびサッカー愛好家を招くことで理想的な育成指導ができる地域のスポーツクラブを目指す。
- ・少年のスポーツは大人がエスカレートすることによって本来の目的を見失い、勝つことだけにこだわり、枠にはまった型でスポーツを強制する指導は行わない。
- ・子供のスポーツは、この時期においては遊びの一環として、上手下手や速さ遅さはさしたる問題ではない。
- ・身体と心の育つ少年期に自分自身で考え、判断する力や想像力を養えるようにする。
- ・楽しみながら継続することによって基本を身につけ、スポーツの楽しさに理解を深める第一歩とする。

前身の豊島少年サッカークラブでもいくつかのサッカー専門性をチームコンセプトに掲げていますが、実際には健康的・教育的な育成的要素が指導面において色濃くあったのではないかと思います。

しかし、この20年で日本のサッカーを取り囲む環境やビジョンは大きく変質したように思います。

平成5年（1993年）に我が国で日本プロサッカーリーグ（J1）が発足され、近年のサッカー人気の背景もあり、World Cupをはじめとする世界で行われる各種大会等もテレビや雑誌、インターネットなどの媒体を通じて目にする機会がたいへん多くなってきました。

それによって、ジュニア（小学生）サッカーを取り巻く環境も大きく変わり、日本サッカー協会主催の公式戦や地域リーグの大会数も昔に比べものにならない程多くなっているのが実情です。

また、日本サッカー協会傘下の各都道府県サッカー協会においても、ジュニア期からのトレーニングセンターの取り組みが行われ、将来の日本を代表する選手を育成発掘しようとする試みも盛んに行われています。

このようにサッカーというスポーツ環境面の充実も相まって、その高度化が進むにつれて、「体育」＝「スポーツ」という解釈をしていた我々は次第にその違いに気づくこととなります。

その違いとは、スポーツに求められるより高い競技性や技術性、勝敗など、私たちが慣れ親しんだ「体育」ではない、世界基準の「スポーツ」という概念を認めざるを得なくなってきたのです。現在では「体育」≠「スポーツ」という考え方が日本においても広く一般的となりつつあります。

体 育
健康増進
教 育
体力向上

≠

スポーツ
競 技 性
技 術 性
勝 敗
戦術（ルール）

前述のようなサッカー環境の大きな変化の波は、小さな一地域で少年サッカーチームとしてボランティア活動を行ってきた私たちのチームにも感じられます。昨今の少子化問題がありながらも、昔では考えられなかったサッカーチーム数の増加や、サッカーをスポーツビジネスとしたスクールなどもこの地域に多く作られてきています。これはサッカーをしたい子供たちにとっては選択肢が増える喜ばしい現象と言ってよいでしょう。

このようなチーム間競争の中で、豊島少年サッカークラブも、より具体的なスポーツ競技としてのサッカー指導の充実と、少しでも良いプレー場所を子供たちに与えられる環境整備に取り組むべく、平成26年（2014年）12月に任意団体から特定非営利活動法人（NPO法人）資格を取得し、チーム名も「豊島サッカークラブ」と改め、チームビジョンの新しい構築を作っていこうと動き始めました。

当然ながら、小学生期は人生において心身ともに一番大切な成長期ですので、「体育」で考えられてきた健康増進、体力向上等を基本に、「スポーツ」として多数行われる交流戦や公式戦の試合を通じて、サッカーでの競技性や技術性、小学生レベルでの戦術やルール、そして何よりも試合に勝つことだけでなく、試合の勝敗を通して自己に負けない強さやたくましさの「克つ」を身につけ、小学生の先にある中学生サッカー（ジュニアユース）のステージに繋げてもらえたらと考えています。

保護者の皆様には、ぜひ豊島サッカークラブの運営方針をご理解頂き、大切なお子様の小学生期の時間をサッカーというスポーツで彩って頂ければと願っています。

平成27年（2015年）3月

特定非営利活動法人 豊島サッカークラブ
理事長 田 島 英 佳